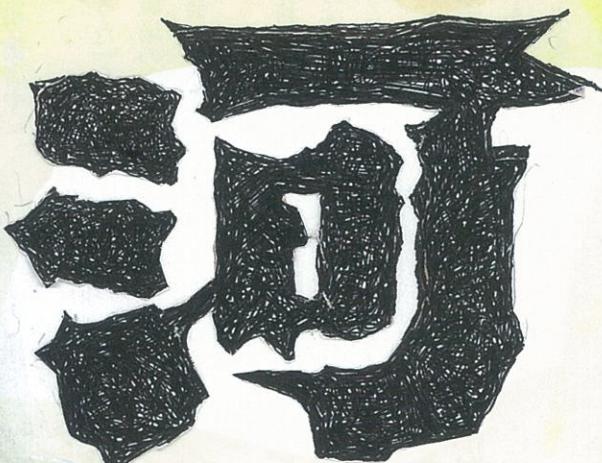


# 劇団きづがわ第71回公演

第43回大阪新劇フェスティバル参加



『戦後七〇年』の今を問う感動のドラマ！

原爆詩人・峰三吉と  
その仲間たちの姿を通して

作／土屋 清

演出／林田時夫

とき：12月19日(土) AM11:00 & PM4:00  
20日(日) PM 2:00

ところ：リバティおおさか ホール（大阪人権博物館）  
(JR環状線 / 芦原橋下車南へ約 600m)

入場料： 前売り一般 3,000円

学障シニア (65才以上) 2,500円

ペア (夫婦) 5,000円

(当日券はいずれも 1人 500円 UP)

# 劇団きづがわ第71回公演

# 河

4幕



峰三吉

原爆投下の広島…。廢墟のなかから芽吹く自由と文化の息吹。その広島の地で、峰三吉は青年文化連盟のリーダーとして、詩作に励み、社会科学研究会、文芸誌の発行、詩画展や音楽会と、病身を引きずり大車輪の活動を続ける。だが、その内面では、とにかく心情に流れやすい自己の詩に行き詰まりを感じ、その突破口を求めてもいた。

そんななか、アメリカ占領下での「民主主義」の時代も終わりを告げるよう、企業整備・行政整備の合理化の風が吹く。ここ広島では、日本製鋼広島工場で660人の首切りと共に、武装警官が労働者や市民に襲いかかってきた。

峰は、この光景を目撃して『怒りのうた』を書きあげ朗読、深い感銘を与える。そして、職場の文学サークルの仲間たちと共に『われらの詩の会』をスタートさせた。

しかし時代は、民間大企業、マスコミ、公務員、公共企業体へと首切りの嵐は荒れ狂い、下山・三鷹、松川事件と、「日本の黒い霧」が列島を包み、レッドパージ、朝鮮戦争勃発へと激動する。

この時、彼らは5年間の沈黙を破って、原爆を語り始める。占領政治の下、抑えに抑えてきたものが堰を切つてあふれ出す。平和と名のつくすべての集会が禁止されたヒロシマから、「風のように炎のように」原爆詩人・峰三吉たちの反核・平和の烽火が…。

## スタッフ



演出 土屋 清

作舞 台 監 督 林田時夫  
同 助 手 北尾利晴

美 術 和田雅子

大 道 具 三村省三  
照 明 新田三郎

音響効果 照島佳宏

小 道 具 河原正隆

映 像 溝口隆徳

制 作 同オペ

大 木 見田 峰三吉  
妻 中屋 春子  
市 河 和田 雅子  
妻 春子  
要 光雄  
寺 島 林田 雅子  
妻 中屋 春子  
妻 信田 和田 雅子  
寺 島 林田 雅子  
妻 山本惣一郎 政博 彩子  
寺 島 林田 雅子  
妻 山本惣一郎 政博 彩子  
寺 島 林田 雅子  
妻 由 浩  
寺 島 林田 雅子  
妻 由 浩

高峰	増田	吉本	岩井	岩井	橋野	島本	福露	平山
妻	大木	大木	美代子	久子	西尾	橋野	島本	
妻	鈴木	鈴木	正一	純子	悦子	悦子	拓治	
要	凱太	英作	せき	八子	一巳	由浩		
要	春子	和田	春子	八子	一巳	由浩		
要	和田	雅子	和田	由浩	由浩	由浩		

## リバティおおさか略図



リバティおおさか (大阪人権博物館)  
〒556-0026 大阪市浪速区浪速西3-6-36  
TEL:06(6561)5891

# 河

4幕

第1幕 『絵の具』

第2幕 『怒りのうた』

第3幕 ①『八月六日』

②『一九五〇年の  
八月六日』

③『ひろしまの空』

④幕 『その日はいつか』

(各幕のタイトルは詩の題名)



原爆投下の広島、戦後の激動期。『風のように、炎のように』生きた峰三吉と仲間たちの群像！

劇団きづがわ 〒551-0031 大阪市大正区泉尾4-2-7 TEL&FAX 06-6551-3481 (携帯)090-7359-7335